

たくさんのおもちゃに囲まれて

市内の保育園・幼稚園にクリスマスプレゼント

12月25日、NECプラットフォームズ株式会社白石・米沢事業所が、私立保育園・幼稚園を含む市内11カ所の保育園と幼稚園にトランポリンや三輪車、輪投げなどのおもちゃをプレゼントしました。この日は、同社から小菅信成執行役員など3人が大鷹沢保育園を訪れ、山田市長へ目録を贈呈。同社は地域貢献活動の一環として、従業員やその家族が集めたアルミ缶の売買取込などを活用して、毎年保育園などにクリスマスプレゼントを贈り続けています。園児は「仲良く使います。ありがとうございます」と笑顔でお礼を述べていました。



▲たくさんのおもちゃを前に目を輝かせて喜ぶ園児たち

県内初！ 高校生がドローン体験

白石工業高等学校でドローンスクール開催

12月19日、「白石工業高校生向けドローンスクール」が同校で開催され、同校機械科の3年生70人が参加しました。このスクールは、平成29年7月に本市とドローン等ICT技術に関する協力協定を締結した東日本ICT推進協議会が開催。はじめに、全員でドローンの機能や構造、特徴を学んだ後、2班に分かれて操作を体験しました。高校生が操作を体験できる本格的なスクールは県内初！ 参加した生徒は「ドローンは今後、日常的に活用される技術だと思うので、私も技術を身に付けていきたいです」と話してくれました。



▲講師を務めた同協議会会員(左)から操縦方法を教わる生徒(中央)

団子の花が咲きました

北保育園で団子さし

1月9日、小正月の「団子さし」が北保育園で開催されました。この行事は、園児に日本の伝統にふれてもらおうと、地元自治会の協力を得て行われている恒例行事。参加した園児38人は、白と杵を用いた昔ながらの餅つきを体験し、食紅で赤・緑・黄色に染め丸めた団子や縁起物を、高さ約3mのミズキの枝に1つ1つ丁寧に飾り付けていきました。園児は「お団子をつくるのが楽しかった」「きれいに飾れてよかった」と話していました。最後はつきたてのきなこ餅を食べながら、みんなで小正月を祝いました。



▲真剣な表情で色とりどりの団子を飾り付けました

伝統と触れ合いをずっと大切に

斎川小学校でしめ縄づくり

12月20日、斎川小学校で「しめ縄づくり」が行われました。この行事は、地域の方を講師に招き、伝統的な正月行事について理解し、活動を通して地域の方々と触れ合うことを目的に、30年ほど前から行われているもの。5・6年生の児童を対象に行っており、4月の白石第二小学校との統合を前に、斎川小としては最後のしめ縄づくりとなりました。児童9人は、稲わらをより合わせて1本の縄にして輪を作り、松の葉と昆布、四手で飾り付けていました。児童は「この伝統をずっと受け継いでいけるように頑張ります」と感想を話していました。



▲地域の方に教わりながら縄をなっていく児童たち

1年の無病息災を願って

武家屋敷で七草の会

1月7日、「七草の会」が武家屋敷で開催されました。この催しは、1年の無病息災を願って七草粥を食べる新年の恒例行事。ヘルスメイト白石の皆さんが、セリ、ナズナなど春の七草を「七草のうた」を口ずさみながら調理し、仕上げに小さな餅を入れて作り上げました。七草粥は、お正月のご馳走に疲れた胃腸をいたわり、青葉の不足しがちな冬場の栄養補給をする効用があります。この日準備した150食の七草粥は、訪れた観光客などに振る舞われ、試食した子どもは「今年も元気に遊べるように願って食べました」と話してくれました。



▲振る舞われた七草粥を試食する親子連れ

100歳おめでとうございます

佐竹マツさんに松竹梅敬老祝金

1月8日に100歳を迎えた佐竹マツさんを山田市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を送り長寿を祝いました。マツさんは越河のお生まれ。女学校を卒業後上京して工場に勤め、その後満州へ渡りました。結婚して中国へ移った後に終戦を迎え、つらい引き揚げ体験をされたそうです。白石に戻ってからはお子さん5人を育て、現在は孫が4人、ひ孫が3人います。終戦時の苦労から平和の大切さを痛感しながら、日々を過ごしているということです。長生きの秘訣は「何事にも興味を持ちくよくよしないことではないか」と家族が話してくれました。



▲山田市長からの祝福に笑顔のマツさん(右)

今年も楽しい1年にしよう！

白石市手をつなぐ育成会 新年を祝う会・成人を祝う会

1月14日、障がいをもつ子どもとその家族でつくる「白石市手をつなぐ育成会」(巨泉猛会長)が「新年を祝う会・成人を祝う会」を大平公民館で開催しました。新たに成人となったのは今野千晶さん。この日は都合により出席できませんでしたが、両親への一言や成人になったの感想などが紹介されました。新年を祝う会では、抱負を発表し合ったり、来場者全員で手話を用いながら歌ったりしました。また、越河小学校の児童が合奏や朗読を、障がいをもつ子どもたちを中心としたダンスユニット「ちゃれんじど」などがダンスなどを披露しました。



▲出席者全員で記念撮影。地域との繋がりを大事にしています

100歳おめでとうございます

佐久間文子さんに松竹梅敬老祝金

12月19日に100歳を迎えた佐久間文子さんを菊地正昭副市長が訪ね、松竹梅敬老祝金と祝詞を送り長寿を祝いました。文子さんは兵庫県のお生まれ。若いころはお手伝いさんをし、上京後に結婚してすし屋を営んでいました。その後、実家の跡を継ぐため白石へ戻り、農業や製材業を必死に覚え、お子さん7人を育てました。現在は、孫が15人、ひ孫が9人います。施設の生活では、毎日車イスで園内を自由に動いて過ごしているそうです。長生きの秘訣は「何事もくよくよせず、自分流に生きていることではないか」と家族が話してくれました。



▲祝詞を手に笑顔の文子さん(左)と菊地副市長